地域資源から広がる私の視野

サマーセミナー　本校では、１年文理探究科の生徒を対象に、課題研究のテーマ設定や各種体験を通じて来年度の文理選択を考える機会とすることを目的に、毎年、サマーセミナーを実施しています。

理数探究　7月29日(水)

福井県年縞博物館を訪れ、学芸員の方や立命館大学中川毅教授の講義を通して、水月湖の湖底に眠る年縞の謎に迫りました。年縞が「地球の過去の気候や環境を映し出すタイムカプセル」であり、「世界の年代を測る標準(グローバル・スタンダード)」として用いられていることを学びました。また、本物の資料に触れ、地球の歴史を科学で解き明かす研究の重要性を実感しました。

最先端の知に触れたことで科学への知的好奇心が刺激され、これからの探究活動や自らの進路を描く大きな糧となりました。



国際探究　8月5日(水)

海外からのゲストを迎え、英語で自身の考えを伝えること、相手の言葉に耳を傾けること、そして多様な文化や価値観に触れることを大切に活動に臨みました。

少人数での会話やゲーム、ダンスを通じた交流により、言葉の壁を越えて各国の文化を楽しく学ぶことができました。国際的な視野を広げ、新たな気づきを得る貴重な機会となりました。

生徒からは「自分の英語が通じて嬉しかった」「他国を知るために地理や世界史の知識も深めたい」といった意欲的な声が挙がりました。



松本洋平文部科学大臣　表敬訪問

海洋科学科３年生森口恋歌さん、松原心優希さん、早康介さん、藤井大悟さんが、松本洋平文部科学大臣を表敬訪問しました。３年生が４月に総合実習で製造した宇宙サバ缶を、先輩が開発したOcean箸で試食していただき、宇宙サバ缶についてクイズ形式で特徴を説明しました。また、「海洋探究」では、多くの地域の方々に「共育パートナーシップ」として、無償で協力していただいていることを紹介し、それぞれが探究活動を通して進路を決定していることを伝えました。



未来の科学者　世界の舞台へ！

理数探究科２年植木穂摘さん、村松優奈さんが７月24～27日に東京で開催されたOECD/NEA国際メンタリングワークショップ・イン・Joshikaiに参加しました。世界で活躍する女性メンターの講演や、AI・リーダー像などをテーマとしたグループ議論に挑戦しました。世界的なロールモデルや志を同じくする仲間との交流を通じ、キャリアの視野を広げ、大きな自信と意欲を得る貴重な機会となりました。



サバ缶、宇宙へ行く探究作文コンクール入賞

知事賞	2-2	植木	穂摘
小浜市長賞	3-3	愛甲	天快
小浜市教育長賞	2-1	菅原	悠宇





学びの場は学校だけじゃない！

お城博士　雲浜小学生にお城講座

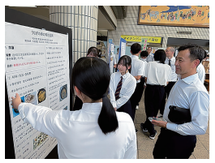
5月18日(月) 雲浜小学校出前授業

国際探究科３年山下惺也さんが雲浜小学校３年生を小浜城へ案内し、石垣をはじめとする小浜城の魅力について語りました。「地元の魅力を再発見できた」と参加した小学生に喜んでもらうことができました。



小浜市研究発表会

3年海洋科学科　5月19日(火)
3年理数探究科　5月20日(水)



これまでの探究活動の成果をまとめ、小浜市役所１階ロビーにてポスター発表を行いました。多くの地域の方々にご来場いただき、研究に関心を持っていただくことができました。温かい言葉が生徒の達成感に繋がり、大きな喜びと励みになりました。

大阪大学研究室訪問研修

8月3日(月)～5日(水)



２年理数探究科・普通科理系の生徒が研究室を訪問し、量子線生体材料や環境エネルギーなど４つの領域に分かれ、最先端の実験や分析に挑戦しました。難解な課題にも仲間と協力して粘り強く取り組み、大学ならではの研究の奥深さや楽しさを体感することができました。

若狭高校HP　SSH・研究部 Facebook　若狭高校 Instagram
HP・SNSで若高生の活躍をチェック！





福井県立若狭高等学校

SSHだより

Vol.38
2026.9

『好き！』から始まる冒険。

― 若狭高校で“未来の自分”を見つけた先輩たちにインタビュー！ ―

若狭高校では、自分の「好き！」を原動力に、それぞれが異なるテーマで探究活動に取り組んでいます。「Wonder(なぜ？どうして？)」を大切に、自らの問いをとことん追求しながら、地域や社会とつながって日々楽しく活動しています。

今回は、情熱を持って探究に取り組む２・３年生にインタビュー！探究に込める思いや探究を通して感じる自らの成長、そして中学生の皆さんに伝えたい「若狭高校の探究の魅力」について聞きました。

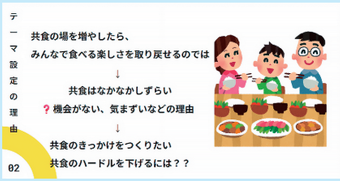
国際探究科



２年 砂津早紀(高浜)

共食のハードルを下げるための効果的な方法とは

高浜町在住の一人暮らしの高齢者に食事の楽しさを再認識してもらうことを目指しています。自分の好きなことをとことん突き詰められるので、とても楽しく活動できています。自分の軸をもって探究することでそれが楽しみに繋がるのだと思います。中学生のみなさんにも自分の「好き」の軸を大切にしてほしいです。



テーマ設定の経緯

理数探究科



２年 常盤七海(高浜)
福尾絢(大飯)　村松優奈(小浜)

コーヒーかすを発酵させた肥料の活用

廃棄物を再利用して新たな価値を生み出せないかと考え、この探究を始めました。自分たちが興味のあることが誰かの役に立ち、喜んでもらえるようになるのが嬉しいです。探究は理科の実験と違い、計画立てや溶液作りから自分たちで行います。答えが見えないからこその難しさがありますが、どんな結果が出るのかワクワクできるのも探究の醍醐味だと思います。



コーヒーに含まれるカフェインの量を測定する実験

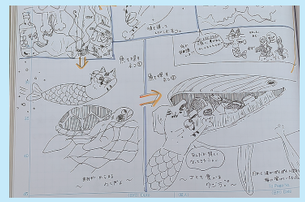
海洋科学科



３年 上田真歩(内浦)

海ゴミ問題による環境教育の絵本化

幼い頃に読んだ、海洋汚染についての絵本に衝撃を受け、環境問題に興味を持つようになりました。得意の絵を活かして、今度は私が子どもたちの心に残る絵本を作りたいです。私の絵本を読んだ子どもたちが大人になった時、海や自然を大切にできるようになれば嬉しいです。「大きなこと」より「好きなこと」にアプローチした結果、ここにたどり着きました。



絵コンテ

普通科文系



２年 大野琴葉(三方)
水尻奏名(小浜第二)

オノマトペを通してつながる人の考え方

感情を伝えやすい「オノマトペ」を活用し、楽しく意見を共有できる対話型ボードゲームを制作しています。途中で壁にぶつかっても一度立ち止まって考えることで、そこから新たな気づきが生まれることもあります。また、少人数だからこそ先生に気軽に相談でき、地域や専門家の方々との関わりを通して視野を広げながら、より深く探究活動に取り組めることに魅力を感じています。



専門家と対話する様子

普通科理系×文系



２年理系 大野真太朗(三方)　内山葵心(上中)　藤本大誠(小浜)
文系 小泉大弦(気比)　森口陽貴(上中)

相手に伝わりやすい話し方

相手に自分の言葉を理解してもらえないことが多かった経験から、どうすれば相手に伝わりやすくなるのかを知りたくなりました。声のトーンやテンポだけでなく、表情や身振りなどにも注目して分析し、より伝わりやすい話し方を導き出したいです。若狭高校では、文系・理系の壁を越えて探究することもできます。同じことを探究していても、様々な視点から新しいことを発見できる喜びがあります。



※カッコ内は出身中学校

第14回 国際科学フォーラム 開催



7月11日(土)、14th Wakasa International Science Forum(WISF)を開催しました。国内からは９校、国外からは連携校の暖暖高校(台湾)、デ・ラ・サール・リパ高校(フィリピン)の２校に参加いただき、計11校から総勢324名の生徒が参加しました。本校からは、全学科・全学年より計158名の生徒が発表者や運営実行委員として携わり、互いの国の文化や考え方に触れるとともに研究を通じた国際交流ができた貴重な経験となりました。

Opening Ceremony　～開会式～



参加校

De La Salle Lipa University High School（フィリピン）
Nuan Nuan Senior High School(台湾)
西舞鶴高校、東海大付属高輪台高校、
仙台第三高校、萩高校、藤島高校、
高志高校、武生高校、敦賀高校、美方高校



Matching for Collaborative Research ～共同研究マッチング(研究仲間探し）～

研究連携校の生徒と一緒に探究を進めていくことを目指し、お互いの興味がある分野を紹介し合い、同じ分野の人が見つかったら、共同研究の進め方を話し合いました。日本・台湾・フィリピンの３か国が持つ多様な文化や視点が交わることで、これまでにない新しい発想や成果が生まれることが期待されます。





７組がマッチングしました！
来年度のWISFでの研究発表を目指し、研究を始めます！

Presentation Session & Closing Ceremony ～研究発表＆閉会式～

３年理数探究科の生徒が、国内外の招待校の生徒と英語で研究成果を発表し合いました。発表内容の素晴らしさはもちろん、聴き手を惹きつける工夫を凝らした発表スタイルも印象的で、多くの学びを得る機会となりました。



日頃の授業や学校生活で培った英語を使って思いを伝える力を試す絶好の機会となりました。英語に苦手意識を持っていた生徒も「伝えたい」という強い情熱を持って臨み、楽しんで意思疎通を図ることができました。

参加者の声＆後輩へのメッセージ

実行委員長　堀口芽愛（国際探究科2年）
私が考えるWISFの利点は、外国人にも通じるコミュニケーション能力を高められる点です。準備を含め、どうすれば相手に思いが伝わるのかを考え続けた非常に深い４か月間になりました。ぜひこの気持ちを後輩にも体験してほしい！楽しさは私が保証します！

午前の部リーダー　磯引蓮斗（理数探究科2年）
初参加・初リーダーで難しさもありましたが、海外生徒の英語力と熱量に刺激を受け、国境を越えた友人もできました。英語に自信がなくても一歩踏み出す価値があります！
Your future friends are waiting to meet you！

プレイヤー　山口凜人（海洋科学科2年）
海外生徒と英語で喋る楽しさを実感でき、面白い探究にも出会えました。ESA 部での練習成果を発揮し、共同研究が決まった時の達成感は格別でした。この経験で、もっと英語を極めたいと思えました。英語が苦手な君、参加したら一皮剥けるぞ！

スタッフ・見学者 越智ななこ（普通科1年）
準備や言葉の違いに苦労もしましたが、参加者同士が言語の壁を越え、楽しそうに交流する姿を見られ、嬉しかったです。挑戦の大切さを実感できる機会でした！

デ・ラ・サール・リパ高校生（フィリピン）
他国の生徒の事例について学ぶことで視野が広がりました。また、質疑応答を通して自分たちのプロジェクトを改善する貴重な手がかりを得られました！

暖暖高校生(台湾)
英語のレポート作成は大変な挑戦でしたが、素晴らしい学びとたくさんの素敵な友達を得られました！

先輩、探究の真の楽しみ方を教えて！

探究クロスセッション

1、3年　5月27日(水)

全学科で、３年生から１年生に向けて探究の成果発表を行いました。質疑応答では、テーマ設定の重要性や探究活動を進める上で気を付けるべきポイントはもちろん、壁にぶつかったときにどのように乗り越えたのか、どんな気持ちで探究と向き合ってきたのかなど自身の経験を踏まえ、先輩から後輩へ多くのアドバイスが伝えられました。本校ではこの取組を通して探究のノウハウを継承しています。





専門家の先生とさらに深めよう

第１回探究協働会議(テーマ助言会)

2年国際探究科　5月29日(金)
2年海洋科学科　6月19日(金)
2年理数探究科　6月23日(火)
2年普通科　6月24日(水)

専門家との対話を通じて探究の質を高めることを目的に、大学教員や地元企業等の方々を講師としてお招きし、「探究協働会議」を実施しました。生徒たちは探究活動の研究計画や進行状況について発表し、講師の方々から新たな視点や改善のヒントを得ることができました。





第２回は11月ごろに実施予定です。探究が深まってきたころに再度、専門家からご助言をいただけます！

サイエンスダイアログ①

2年理数探究科　6月9日(火)

京都大学基礎物理学研究所よりNicolò Zenoni氏をお招きし、最先端の研究について英語でご講義をいただきました。



Q. 本をブラックホールの中に投げ込んだら、本に書かれている情報（文字）はどうなってしまうか？という問いをはじめ、ブラックホールに関する研究内容をわかりやすく説明してくださいました。

自分が住む地域のこと、もっと知りたい！

第１回地域の方から学ぼう

1年普通科　6月10日(水)
1年海洋科学科　6月24日(水)

地域の方々から直接話を伺い、身近な課題からヒントを得て、探究のテーマ設定につなげています。質疑応答を含めた講師の方々との対話では、生徒たちが積極的に質問をする姿が見られました。

普通科では、若狭地域4市町の行政や企業で活躍されている方々をお招きし、「人口減少対策」や「観光振興」等、若狭地域の抱える課題や地域活性化に向けた様々な取組についてお話しいただきました。自分が住む町が抱える課題や魅力に気づき、地域の現状を身近に感じることができました。





海洋科学科では、近隣地域の水産業に携わる方々をお招きし、探究テーマ設定に向けてアドバイスをいただきました。また、「未利用魚の有効活用」など地域の水産業を取り巻く現状や課題についてお話しいただきました。興味の幅を広げるきっかけのひとつとなりました。





探究の楽しさを中学生に伝えたい！

上中中学校探究交流会

3年国際探究科　5月21日(木)

上中中学校１・２年生に探究成果発表を行いました。同校出身の宮田あいささんと、小浜中学校出身の知原璃空さん、中島悠揚さんが相談会の企画・運営を行い、中学生の探究相談に乗りました。自身の経験をもとに、壁にぶつかったときの乗り越え方や、心から探究を楽しむコツを伝授。中学生が抱える探究の悩みの種に対し、先輩として寄り添いながら一緒に解決策を探りました。



